東郷村報

第97号
昭和34年12月15日
発行所
宮崎県東臼杵郡
東郷村役場
日向市富高
株式会社 安藤印刷所
電話64番

文化祭を了えて

本村独特とも言つてよい分館文化祭が十一月二十五日から十二月三日までに、それぞれ開催され、総合文化祭は十二月五日六日の両日東郷小学校で行われたが、分館文化祭といい、総合文化祭といいまことに見事な文化祭であつたことは、村民各位の日頃の御努力と御協力の賜であつて深甚の敬意と謝意を表する。

本年特に目立つた事は各公民館ともにバレーボール大会が催された事である。この事はやがて健康で協和の村建設の礎となる事を信じている。

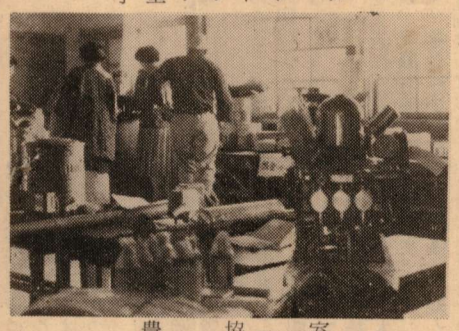
田野公民館が刈り田にコートを作つて大会を行つたこと、小長野が五戸で一チームを作つて堂々と他チームと戦つていた姿。五十の坂を越えた人々が青年に伍して駅伝に出場した勇姿など全く感激篇である。或る青年が「村が若返つた」と言つたが全くその感が深い。十年前幾多の障碍を排除して分館文化祭を設けたとき、いつの日にかはこの行事が部落最大の行事となり部落あげて最高の和楽の日になるであることを祈念したのであつたが、今年各分館の文化祭を見てはじめて十年前の夢が実現された感が深い。

お互が一年間の努力のあとを展示して互に比較し、研究し、よろこび、はげまし合いつつ文化の眼を高め、あすへの希望をもやし。一年間の心のうさを運動競技に演芸に洗い落して明日のくらしにうるみを与える。これ文化祭がもつ大きな意義であろう。

十二年の年月の経た本村の文化祭は立派な伝統と歴史が出来たと確信している。しかし現状に満足してはならぬ。展示会場の飾りつけはどうすればよいか。陳列の方法は、荷造りは等々挙げて来ればまだ大いに考えなければならぬこと、改めなければならぬことなど幾多の問題が残されている、村民各位の御支援により来年は本年より一層充実した文化祭が開催されるようにと祈念してやまぬ。

女子一般排球

学童ソフトボール


農協室

特産室

審査報告

分館文化祭今年の新しい活動として見られるものは体育行事が大きく取入れられたことである。バレーボール、駅伝等その種目や方法に多少のちがいはあつたが各部落とも部落民をあげての体育活動に新鮮な雰囲気が見られたことは誠にうれしいことである。

産業面に於ても年中行事として家庭茶園、早期水稲、普通水稲の坪刈、甘藷、馬鈴薯の坪掘り、堆肥審査等各種審査会や競作会が開催され、各文化祭会場にその成績表が現れていたことは常々の努力の賜と深甚の敬意を表したい。出品物について年々味噌、正油等加工品、手芸品の出品の増加して来ることは活発な婦人活動のあらわれであつて感謝に堪えない。

畜産品展の開催が各部落文化祭に取り入れられて、和牛、豚、卵等の品評会を通じ畜産の改良と増殖に今後の振展が期待される。蔬菜、農産加工品等出品種類の多かつたことは各部落とも共通の特徴であるが戸数に比して出品点の少ない部落のあつたこと、粗雑な出品の出し方が見受けられたことなどは今後注意を要するところであろう。

二日間に亘る部落文化祭は部落最大の行事である。部落民が一体となつてこれが運営に当るとき初めてその成果を挙げることができるのである。本村独特で他に類を見ない部落文化祭が今後益々伸展するよう祈念して審査の報告とする。

国内研修に参加して

沖田征郎

国の補助と県費で、本年始めて青年の国内研修が実施されることになり、第一回研修生として九月二日より約一カ月間、奈良県へ研修する機会を得たことは光栄の至りであり、私をして意義ある研修にせしめた。

この研修の目的は「産業の目」を開くことが第一であつたが、短期間であり、技術を習得すると云うことは不可能なことでもあり、又これだけが目的の全てではなく、現地の地域社会の人間関係も又生活、青年団の活動状況も、この目で視、実際にそれらに触れ合い研修することであつて、この事は前もつて諸先生より訓示された事でした。秋田の杉と共に日本でも有名な吉野林業の地である奈良県は県の六〇%が山間部で占められ、集約的な吉野杉の中心になつている。

研修地吉野郡、宇陀郡はじめその地方で研修し、中でも吉野林業を二分する川上村、小川村を主に視察研修した。この地が、環境その他、或る部分では異つていると云う事は既知であつたが、私の農業経営に結び付いた山林経営と云うのは一寸縁遠かつた。だが、別な角度から観た私なりのこの先進地に対する地域社会の人間関係、産業等の期待は九分通り達成されたと云つても過言ではない。此の吉野林業を視察、研修する事に依つて、新たな認識が生れたことは、或る条件は異つても山林資源へ対する私の愛林思想と云う信念を益々深いものとした。

まずこれらの林相を見て驚ろいた事は非常に密植である事。挿穂でなく実生による苗木養成であり、杉檜の混植林の多い事等数多くある。

吉野林業の栄えた原因として、森林資源が豊富であつた事。地質、気候が最適、水運の便と林業制度の確立、住民の愛林思想、豊臣時代以後の木材需要等である。又その中で大なる原因と云うのが借地制である。此の地方は耕地が乏しく、住民の生たる生業は木材の伐出し、流送、販売による他なかつた。

この地方としては、利益を得る事が少く、資本を蓄積する余地はなかつたし、村に課せられた貢租は高く、村は租税の支払いに窮し、郷内の有力者に林地を売却し或いは造林の能力ある者に之を貸し付ける制度を設け造林を促進させた。併し乍ら、村民も維持する資本に欠けていたので、都市の商業資本の消費貸付を通じて借地林が発生した。又、これらの地方の特徴としては、集約的な先進民有地帯であり、この林業発達の過程に於て必然的に生じた借地林業制度、これにより基礎づけられた村外の大森林所有者に依る林業経営、更に生産技術、組織の進展に力を注いだ〃山守制度〃も大きな特徴と云えるだろう。又材その物の用途としては酒樽、樽丸の生産として欠かせぬ物であり、その為、非常なる密植であつた。其の理由は年輪巾が狭く、且つ均一な完満通直無節な杉である事。併し乍ら醸造容器材の需要の杜絶と共に〃質より量〃の声に変わりつつあるが、現状の利点として、間伐による林利の回収である。

労賃の高いこの地方では、早く換金化し回収しなくてはならないのである。又、云い忘れてならない事は、間伐材が全て製品化される事、換言すれば、すぐに換金化される事である。これらの間伐材で上る収入は、伐期（五〇年）に達して皆伐された価格以上に上るとの事でした。

又、林道の抜けている事は我々を驚ろかした。海抜一、五〇〇米の山頂まで車で登つたが、見渡す限りの山々は全て緑に覆われ、杉、檜（七対三）で埋つていた。この地方の人が、如何に山を愛し、深刻に考えているかが窺える。集約的な林業地、川上村を例にとつて見れば、面積289㎢で東西20㎞、南北18㎞で人口約一二、〇〇〇人ある。村予算も五、六〇〇万円であり、本村とも似かよつた所がかなりあるが、川上村での生活形態は全然異質なものであつて、山林が約二六〇、〇〇〇反歩、畑が一、〇〇〇反、田が五反である。これらの数字を見ても分る様に、村民の大部分が山林を生業としているのであるが、だからといつてそれらの人々が、山林を所有している訳ではなく、村民の八～九割が自己所有林を持たず、山林の仕事に依存しなければならないのである。村内の山林八〇%は不在地主の所有であつて、それらの人は、村内に山守を置き、全ての管理を委嘱させ、皆伐の折、売却金の百分の五だけ山守料を支払う。

現在川上村での山守りは三五〇人もいて一人で数町歩から数千町歩余りにも及ぶ森林を保護してるものもいる由、村民の大部分がそれらの下で労働に従事している訳であつて、彼等は村内で労働組合を結成して、それぞれの不当なことに対して、安定した生活の出来る労働条件を要求する。労働賃金も、我々の村に比すると、はるかに良く、造林賃金が女で四〇〇～五〇〇円男子で六〇〇～七〇〇円、伐木、造材、運材が一、〇〇〇円、木馬引、架線が一、一〇〇円以上であり、労賃の低い本県にとつては夢の様な話である。

雑木林が七割を占めるわが郷土が、少くとも、この地方の雨量その他いくらかの条件で似かよつており、一朝一夕にして、天下に誇る美林にするのは容易ではないが、それらに対する愛林思想が湧けば容易ではないだろうか。

本村に於いても、山林経営はあくまでも農業経営と結びつけたものにすべきであり、現在の余裕があるから植林するということよりもう一歩前進するべきではないだろうか。

生産技術にしても、吉野林業をとり入れる事は不可能かもしれないが、公私所有林に限らず愛林思想は持つべきである。吉野杉の様に密植により間伐収入をあげることは不可能である。

吉野林業では間伐材の販路として、近郊に京阪神の工業地帯を控えており、非常に好条件に恵まれている。現在、郷土の飫肥杉等、弁甲材として、全国的にも有名であるが、反面粗植により土地の無駄の多いことでも有名である。年々木材の需要は増えているし、間伐材の用途も郷土では増える傾向である。本村においても、或る程度の密植はよいのではなかろうか。

――以上の様な事から、私達の見た奈良の農山村について云える事は、生活水準が非常に高い事、テレビ等にしても五～一〇軒に一台の普及率であるとの事でしたが、当地の有識者に云わすれば、貧乏だが派手な生活をしている…との事。

そう云えば、生活物価が恐ろしく高い様でした。何処の青年団等の会合において出る事は、結婚簡素化についてでしたが、何処の農山村でも封建的な風習は残つており、近親結婚、家と家との結婚、又結婚費用についても娘の方で平均四五、〇〇〇円、男子で二〇〇、〇〇〇円位は掛るとの事でしたが、今だに嫁に行く場合、衣裳見せをして村人が押しかける所もあるそうです。

この問題について、若い青年達は大きく取り上げ、戸別にアンケートをとつて見たりして、婦人団と共に村民へ積極的に働きかけているとの事でした。青年団活動にしても地方にゆく程、活発であり、山村より以上に純農村に従事している青年が、自分の生活経営をしつかり捉えて郷土の実態、構成、生産、経営、文化、政治等について調査をし、特に生産に直結した種々の調査を徹底的に青年学級において学習し、家庭、青年団によつて実践して行つてる事は感心しました。

宇陀郡の室生村と云う所で郡内の女子指導者講習会が開かれた時、私達もオブザーバーとして参加したのですが、日向時間と同じ様に大和時間の追放を叫んでいました。それと冠婚葬祭の簡素化をとり上げ、活発に意見を出し合い研究し合つていました。一つの話しを上ぐれば結婚前についての話し合いでは、お互いの誓約書や健康診断書の交換、婚約が整つた時の結納金の廃止、仲人は親切本位の人を選んで貰いたい。結婚のための品は必要最少限度にし、結婚後の生活設計にあてたい。その他、相性、方位、年まわり、日柄等の迷信にとらわれない様に…と云う様な事をお互いに活発に意見を出し合つていましたが、これらの事は本村の現在の状態にも云える事です。他県の青年団以上に本村の青年団は、活発なる行事を行つているが、反面他県の青年に比べて、まだ〳〵自分の経営を、しつかりと掌握していないのではないだろうか。

村税完納に協力下さい

完納

十二月になりまして何かと忙しくなりました。

先般来村税の完納を呼びかけ村民各位の御協力をお願いしていますが、毎年々々十二月村報に全職員による年末一斉徴収完納に協力下さいと書かなければならない。情ない話しです、何時の日かそんな記事を見らないことにもつていき度いものです。

特に今年はがん張つてもらい度いと申上げますのは幸にして台風災害等も一応まぬがれた今年あたり滞納を一掃しておいて、いつもいわれる忘れた頃に来る災害に備えることが必要かと考えられます。

現在差押等強力な徴収の仕事を進めていますが更に全職員により左記の通り年末一斉徴税を実施しますので年末迄には完納し明るい年を迎えることができるよう各位の特別の御協力をお願いする次第です。

記

十二月二十五日より十二月二十七日の三日間

お知らせ

●新入学（小学校）児童について

昭和三十五年四月に村内の各小学校に新しく入学する児童は昭和二十八年四月二日から翌二十九年四月一日までに出生したものです。

①学令には達したが病弱で発育不完や不具者でどうしても、入学出来ない者は医師の診断書を添えて、就学猶予（免除）の申請をして下さい。

②盲ろう児は盲ろう学校に就学義務がありますので申出で下さい。

③該当児で転出または転入した時は必ず届出でて下さい。

その他不明の点は村教育委員会事務局（役場）にお問い合せ下さい。

成人祭について

本村第十二回成人式を次の通り行いますので本年成年に達せられる青年は勿論村民の皆さん挙つて式場に参集して成年に達した青年の前途を祝福することにいたしましよう。

記

一、期日　一月十五日
二、場所　東郷小学校
三、行事
㈠成人式
一〇、〇〇～一一、〇〇
㈡記念講演
一一、〇〇～一二、三〇
㈢祝賀茶話会、記念撮影、レクレーション
㈣書初展
四、備考
成人該当者
昭和十五年一月十五日生から同十六年一月十五日生まで

ポンプ百より
火の用心
用心一つ

うれしい給食　ためになる給食

寺迫小学校長　大田安夫

待望の給食がはじめられて心から喜こんで居ります。「先生何時からはじまつとね」と毎日のように子供にせがまれ、又両親も九六％までが希望した文字通り待ちに待つた寺迫の学校給食であつたのです。

幸い村当局の温い御理解のもと、各方面からの絶大な御支援とP・T・Aの熱意ある働きによつて、その施設が僅か一カ月足らずで、去る十月末に完成いたしました。

そして十一月七日早くも祝いのぜんざいを子供たちに与え、全九日の月曜日からはパンとミルクとおかずの完全給食が実施出来たのであります。私はその日全教室を廻りましたが、こどもたちは行儀よくその配膳を見守り、又早いところはそれを口にして如何にもうれしそうに、にこにこしていました。もうたまらないという喜びや、あの満足そうな顔は今もなお私の心に深く深くきざまれています。

職員室に集まつた先生方も手をとり合つて飛びあがりたいようなうれしさでしたので、本当にはじめてよかつたと思いました。

その後三週間を経ましたが日毎に変るおかずを楽しみに「おいしい」と目を輝かして喜びの気持を示してくれます。参観日には両親に試食をして貰いましたが、矢張り「これはいい」とか「十五円では安い」とか「子供が喜ぶ筈じや」とか「わしたちも毎日来ようかい」等とみんな喜こんでくださいました。

一方父母間の話し合いで、弁当がいらんかい朝が楽じや、帰つてもひもじがらんが、朝楽しみで出て行く、家では肉も食わせられんもん等となかなか評判がよいようです。ただこれが長く続けばいゝがと心配されるむきがあるようですが、これは先生も父母もあのこどもの喜びを思い浮べて何時までも続くよう工夫し努力して頑張らなければならないと思います。

給食費は前納することにしていますが、二カ月とも非常によく納まつています。或る母は二人の子供で二合五勺はかり出しているがまだ冷飯が残るといわれ、或る父は焼酎一本で子供は一カ月食うがといわれ、又たばこを止めたら三人分になるが等の話しも出ます

金は心がけ次第で出来るようです。物納の人もあり既に半年や一年分を納められた方も沢山あります。でも金のことは大切なことですから油断しないようにします。

給食は身体を丈夫にするといわれますが、又脳もよくするそうです。確かに小学校のうちなら偏食がなおせます。栄養が完全に近いのですから、寺迫のこどもはきつと身体も頭のはたらきもぐんぐんよくなつてくるでしょう。

更によい人をと望む道徳教育も給食で生きた勉強が出来ます。先生も友達もみんな同じものを食べ、食事の作法や食事当番の実習が身につき、生活が明るくいきいきとなるからであります。色々考えると給食はおいしくて楽しみで本当によいものです。

終りに関係者に厚く厚く御礼を申し上げます。

一年生の給食風景

お母さん方の試食

農協だより

東郷村農業協同組合

村報を通じ農協の現況をお知らせします。

一、九月末仮決算の状況

損益の実績と計画

	事業益	事業管理費	差引損益	事業並期間外損益	当期利益
年間計画	四、四〇〇、〇〇〇	三、八二四、〇〇〇	五七六、〇〇〇	二、七三二、〇〇〇	一三、二九八、〇〇〇
上半期実績	一、八〇二、五〇一	二、一〇五、一一五	(一)三〇二、六一四	六四四、六五八	三四二、〇四四
下半期計画	二、〇八二、〇〇〇	一、九一二、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	二、七二二、〇〇〇	一二、八九二、〇〇〇

仮決算の結果からみて事業面の損失金（㊀三〇二、六一四）は普通農協の運営常識論からみれば大半の組合が上半期においては損失の結果が生れとの損失は下半期（年間の内最も収入源の多い時）において取返すのが通常の運営になつております。全体としては上半期利益三四二、〇四四と云う結果を出しております。下半期の計画達成見透しについては今後各事業部門遂行において組合員各位の協力を得るならば必ず達成可能と考えます。

尚当期年間利益計画の内には臨時総会の決議に基づく一〇、〇〇〇、〇〇〇の減資が考慮されております。

二、出来秋における貯蓄運動について

夏の陣における農協再建特別定期貯金の運動は組合員各位の協力に依り優秀なる成績を収め得たことは既に御承知の通りであります。こうした組合員の協力と関係機関等の特別援助が基礎となり組合運営も逐次車が回転し始めた訳であり今度全県下的、全国的農協の仲間入りを致しまして東郷村農協も正常な姿で貯蓄運動を実施しておりますが、これはどこまでも経済の確立と安定を前提としており前回実施しました農協再建特別定期貯金と趣をことにしており名称も「だるま」特別定期貯金として皆様方に最大限の協力をお願いしております。

これが支払については勿論皆様に対し迷惑を絶対におかけしないだけの確信をもつております。

目標額　壱千万円

運動期間　昭和三十四年十二月二十日迄

抽籤会　昭和三十四年十二月二十五日

契約期間　一ヵ年

一口　壱千円

確定利息　年五分五厘

災害は忘れたころにやつてまいります、目標額達成に各位の御協力を切にお願いします。

三、貸付金の強行整理について

只今農協では組合運営を堅実ならしめるため一部の方には非常に御気の毒に思いますが貸付金の強行取立と整理を断行しておりますので主旨御理解戴きます様お願いします。

防犯だより　派出所

山陰部長派出所

◎歳末の防犯

今年もまた年の暮が近づいてきました。木枯らしが電線にうなり、硝子戸をならしながら村内を吹きまくられる枯葉にも似て、なぜか追いかけられるようなあわただしさを感じますが、夏には夏の犯罪があるように歳末にはまた歳末特有の犯罪が毎年発生しています。あわただしさ、忙しさについ戸締りを忘れて、あき巣や忍び込みにはいられたり、大売出しの混雑の中でスリや、かつぱらいに盗まれるとか、農協等の金融機関がおそわれるとか、はては、追いつめられた歳末特有のふんいきの中で、目をおおわせるような残虐な犯罪も発生しやすくなります。

本年十月現在の県下における刑法犯の発生は一〇、四五六件で、日向警察署管内では九六四件となつて前年同期にくらべて県下では三、六五八件、日向署では二六九件の減少を示しておりますが、年の瀬の迫るにつれ犯罪の増発が予想されるため県下警察署を総動員して歳末防犯ならびに特別警戒取締を実施することになつたので、この歳末における各種の事件、事故を未然に防止し明るい歳末を送ることができるよう、皆様方の御協力を御願いします。

◎標語

●うつかり油断　すつかり盗難。

●うますぎる話に　必ずワナがある、うつかり乗るまいだましの手。

●スリはあなたのそばにいる、人混みでは懐中物に御用心。

●追い出せ押売り　突き出せ暴力　被害は必ず警察へ。

●届出一分おくれて　賊千里。

●やめましよう　夜ふかし深酒事故のもと。

●混雑は一番スリのよい職場。

●ひとつのカギより　心にカギを。

◎歳末の交通事故を防ごう

年末の街頭は一般に自動車の走行キロがのびるし通行者の延べ人数がふえる、だんだん押しつまるにつれてみんなの気分が一段とあわただしくなるのに加えて寒さのため運動神経がにぶくなり、思いがけない事故が発生しますので、警察では歳末防犯特別警戒と併せて交通事故防止に街頭の指導取締を行うことになつております。

特に酒に酔つて、自動車、自転車、を運転しないこと。速度はきめられた範囲でしかも人家の多い所やカーブでは徐行する等のことが大切であります。

点滴

○〃「村祭り」は神様の祭りであり「文化祭」は人間の祭りである〃との語は村文化祭会長、黒木村長の言である。誠に至言だと思つている。その人間の祭り「文化祭」が多彩の行事のもとに盛大裡に終了し幾多の示唆と反省とよろこびと感激を村民に与えたことはうれしいことである。

○しかしただ一つ悲しい事が毎年ある。それは出品物にいたずらをする事である本年も柿が二つ三つ紛失していたことである。乳児食のパンもなくなつていた。まことに残念な事だ。こんないたずらはもうこりごりだ。来年からは決してないようにと切望してやまぬ。

○裏畑に毎朝霜がおり前田の水田に薄氷がはるころになると枇杷の花が咲いて師走をつげる。

今年も残り少になつた。「烏兎ソウソウ」の感が深いこの一年の歩みを回顧してまことに淋しい。一言にしていえば「無為」の語につきる。こんなことでは「酔生夢死」の語そのままの一生を終る事は必定である。来年こそはくいなき年にと祈念しつつ昭和三十四年を送ることにしよう。

本年もまた感慨なくに暮れにけり。

祖国の皆さまへ
―アメリカから―

海野光洋

さわやかな秋がここイリノイにも訪れて来ましたが、内陸のせいか早や初冬を思わせる気候です。その後相かわらず皆御元気の事と思います。私も元気な毎日です。時々テレビで台風を伝えていますがいかがです。今日はアメリカ生活半年を送りその回顧ともいえるニュースを送ります。

先週の日曜日、インタビューにみえた新聞記者が次のような記事をのせていました。

パキスタン近郊農場に在る一日本人

好む合衆国の風物、生活様式

六カ月までのミチ・ウミノ氏はベッドの上で眠つたことなく、パイ（食後の菓子）を食べたことがなく、また、アメリカ人の常食としているパンバーグ（ひき肉をフライにしたもの）やホット・ドッグ（パンにソーセージなどはさんだもの）の美味も知らなかつた。然し去る三月以来パキスタン市近郊のローランド・スターキー氏宅に住んでいる彼は〃豪奢〃なアメリカの寝具を楽しみ味わうことを学んでいる。パイは彼が好むデザート（食後の果実、菓子のこと）となつている。いろんな種類のパイに好き嫌いなくみんなを好んで食べている。パンバーグやホット・ドッグも同様に大変好んで食べ、彼は特にキング・サイズ（王様型）が好きである。その他のアメリカ料理もすべて同様、またこうした料理の方法も学び、彼自身で料理も出来るようになつ[illegible]

ミチは彼の母国、西南日本からパキスタン市南東七マイルのパキスターキー氏農場の実習生となるまでにはおよそ次のようにして導かれたデビッド、E、リンドストローム博工（イリノイ州立大学農村社会学主任教授）はミチを合衆国に招き、彼の学問を完成させるためには第一実際のアメリカ農業を実地に学びその後に同大学、大学院へ帰つて学ぶように取りはからつている人である。二人の国際的な師弟愛は、同教授が東京国際キリスト教大学の三年間（昭和二八～三〇年）の客員教授となつた時に結ばれた。ミチは当時同博士のもとで大学卒業後の課程の一学生として研究を続けていた。

ミチが去る三月ウルバナ市（イリノイ大学所在地）へ着いた時、テレビジョンを通じてこれらのことを紹介し、この若い日本人学究者を受け入れてくれる農場を求めた。ところがこれを知つたローランドスターキー氏はすぐにその要望に応じミチを招いたのである。

ミチはこの農場の実習となる一方同農場から支払われるアルバイト料から渡航費及び疾病保険金に要した四六六ドルをもブラザンサービス、コミッションへ返済した。この協会はメリーランド州にある内外国人学生保証協会である。

粗放的な中央イリノイ農業は収約的な日本農業とは非常に異つている。二一〇エーカーのトウモロコシ、一二〇エーカーの大豆、一五エーカーの小麦を栽培するスターキー農場とミチの母国の平均三エーカーの農場（家）とは大変違つている。

彼は狭い土地から沢山の収穫物を得ることに通じている。スターキー農場で用いている液体肥料は彼の国ではほとんど使つていないのでミチにとつては新しいことだと説明している。彼は同農場の近代的機械の操作をすべて学びとつた。そしてその機械は彼が今までみたことのなかつたものについても充分操作ができるようになつた。また彼はことで自動車の免許もとり農場の大型トラックや自家用車を乗りまわしている「車を運転する時は日本と違つて右側交通であることも学びました」とミチは云つている。

彼はスターキー夫人の三〇〇個にのぼる果実や野菜のびん詰にも特に興味を持つた。彼の郷里の九州島ではびん詰をしていないとのことだ。これは年中暖かい気候のため新鮮な野菜や果実をいつでも得ることが出来るからである。

アメリカ人に親しまれ必要であるものも、必ずしも日本人にとつてはそうでない。「私の両親は今でもフトンの上で眠ります。ベッドは日本の農村地帯では殆んど使用していないが都市では可なり多いです」と語つた。

仏教はミチ、ウミノの家族及び代々の宗教である。彼は曰く「まだ私は仏教というものを完全に知り尽していませんがこの国で沢山の新しい友人を通じてキリスト教についても学びたい」とミチは現在スターキー家族と共に近くのラドロー町にあるメソジスト教会に毎日曜出席している。

――だいたい以上が新聞記事ですがこれによつて私の日日の生活を御想像いただき、またアメリカ人の生活をも御推察下さいませ。この記事中「ミチ」とありますのは私のことです。

正月について
次のことをお互いに守り
明るい正月をいたしましよう

一、正月は新正月にいたしましよう。

二、年末年始の虚礼（贈答品）はやめましよう。

三、年末年始の宴会は自粛しましよう。